

# 調 査 票



# 道民意識調査



仲良くくっつく2匹のエゾモモンガ

この写真は未来に残したい北海道の魅力を画像で紹介する「北海道ミライノート」から転用しています。

「北海道ミライノート」については、右のQRコードからご覧ください。

▶「北海道ミライノート」(道HP内)



## — ご協力をお願い —

日頃から道政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

北海道では、道民の方々の道政に対する意向や意識を的確に把握し、政策形成に反映させることを目的として、毎年度、「道民意識調査」を実施しております。

調査対象者の選定にあたりましては、道内にお住まいの18歳以上の方1,500名を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年(2022年)8月

北海道知事 鈴木 直道

**9月21日(水)までに次のどちらかの方法で回答してください。**

① **この調査票に直接記入して返信用封筒で郵送**



② **スマートフォン等から回答**

※スマートフォン等から回答する場合は、**右のQRコードを読み取ってください。**



調査票番号

※ 調査票番号は調査票を管理するために委託業者においてランダムに番号をつけているもので、個人が特定されることはありません。

## 回答方法

- 必ずご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。ただし、ご本人の記入が困難な場合は、ご本人の意見などを代理の方が記入されてもかまいません。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あなたの考えに近い番号に○印を付けてください。

例)

- ① 知っている
- 2 知らない
- 3 わからない

- 質問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、その場合は、説明に沿ってお答えください。
- この調査票に記入された内容については、調査の目的以外に使用することはありません。
- この調査の回答は無記名でお願いしています。集計後の調査票は責任を持って廃棄処分しますので、個人情報は守られ、ご迷惑がかかることはありません。

## 提出方法

- 回答の提出方法は2つあります。どちらの方法で提出いただいてもかまいません。
  - ① この調査票に直接記入して返信用封筒に入れて郵送する。  
※ 返信用封筒のあて先は、北海道が調査を委託した昇寿チャート(株)となっています。
  - ② 表紙に掲載している QR コードを読み取ってスマートフォン等から回答する。  
※ スマートフォン等で回答する場合は郵送による回答は不要です。

## よくあるご質問

- 調査対象者はどのように選ばれるのですか。  
北海道内にお住まいの18歳以上の方の中から1,500人の方を統計的な方法によって無作為に抽出します。具体的には、全道を6つの圏域に分け、各圏域ごとに札幌市、人口10万人以上の市、人口10万人未満の市、町村と、人口規模別に分類のうえ、150の調査地点を比例配分し調査市町村を選定します。そして、その選定された各調査市町村の中から無作為に調査地点（条町丁字名別）を抽出します。その後、住民基本台帳を基にその抽出された調査地点に居住している方の中から調査対象となる方を抽出します。

## 目次

	ページ番号	設問数
1 ゼロカーボン北海道について	3~5	6問
2 ケアラー支援について	6~7	4問
3 がん対策について	8~10	7問
4 部活動改革(部活動の地域移行)について		
	11~12	4問
5 生物多様性の取組について	13~14	5問
6 信号機のない横断歩道の交通安全について		
	15	2問
7 薬物乱用の防止について	16	3問
8 あなたご自身のことについてお聞きします		
	17~18	7問

※これまでに実施した調査結果は、北海道のホームページでご覧いただけます。  
インターネット検索で「道民意識調査」と検索してください。

 

質問は全部で38問です。  
皆様のご協力をお願いします。

## 1 ゼロカーボン北海道について

近年、世界各地で異常気象による災害が発生し、道内においても激しい雨が降る頻度が増加するなどの影響が見られ、その主な要因として地球温暖化があげられています。

地球温暖化は地球規模の深刻な問題であり、早期に解決すべき課題であることから、温室効果ガスの排出量と吸収量の均衡をめざす「脱炭素化」の国内外の動きに合わせ、道としても、2050年までに道内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン北海道」をめざすこととしました。

その実現に向けた取組を進めるため、このゼロカーボンに対する道民の皆様の認知度や取組を把握し、各種施策に反映させることを目的として、おたずねするものです。



問1 ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素\* (以下、「ゼロカーボン」と言う)という言葉はどれか一つでもご存じですか。また、どの程度ご存じですか。

次の中から1つだけお選びください。

※ ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素とはいずれも、気候変動問題の被害を最小限に食い止めるため、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、実質ゼロとすることを指します。

なお、この調査では

ゼロカーボン:社会全体で取り組む活動

ゼロカーボン北海道:北海道で取り組む活動を指します

- 1 言葉の意味を知っている
- 2 言葉の意味をある程度知っている
- 3 言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
- 4 言葉の意味も知らないし、聞いたこともない

問2 ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えますか。

次の中から1つだけお選びください。

- 1 必ず達成すべきと考える
- 2 経済を優先した中で達成すべきと考える
- 3 そうは思わない

問3 北海道は2050年にゼロカーボンを目指し、2030年度に温室効果ガス48%削減(2013年度対比)を目標としたことを知っていますか。  
次の中から1つだけお選びください。

- 1 知っている
- 2 聞いたことはある
- 3 知らない

問4 あなたは暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動をしていますか。  
次の中から1つだけお選びください。

- 1 意識している
- 2 ある程度意識している
- 3 あまり意識していない
- 4 全く意識していない

問5 どうしたらゼロカーボンにつながる行動が増えると思いますか。  
次の中からいくつでもお選びください。

- 1 ゼロカーボンの目的がもっと浸透する
- 2 ゼロカーボンにつながる行動を具体的に知ることができる
- 3 ゼロカーボンに寄与する対象商品やサービスが、CO<sub>2</sub>削減に貢献していることを表示している
- 4 ゼロカーボンに寄与する対象商品の購入やサービス利用時にポイントが貯まり、利用できる
- 5 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問6 地球温暖化対策として、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン」が達成されることでどのような効果(影響)があると思いますか。次の中からいくつでもお選びください。

- 1 大気中の温室効果ガス濃度が低下することで、異常気象が減り、豪雨や猛吹雪の回数が減少する
- 2 大気中の温室効果ガス濃度が低下することで、異常気象が減り、猛暑日が減少する
- 3 北海道は再生可能エネルギーのポテンシャルが高いため、関連する企業の地域への誘致が進み、労働人口が増え活性化につながる
- 4 省エネや再エネ導入が更に進み、電気代や燃料費が下がる
- 5 エネルギーの消費に制限がかかるため、今より生活が不便になる
- 6 エネルギー価格が上がることで様々な原料価格が高騰し、結果、商品価格が値上げされる
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )



**ZERO CARBON**  
**HOKKAIDO**



## 2 ケアラー支援について

家族等の身近な人を介護や援助するいわゆる「ケアラー」の方々について、道では、ケアラーに関する地域社会の理解を深め、一人ひとりのケアラーが必要とする支援につなげられるよう、令和4年4月に「北海道ケアラー支援条例」を施行しました。

今後、道としてその総合的な支援を進めていくための「北海道ケアラー支援推進計画(仮称)」を策定するに当たり、家族介護に関する認知度や意識などを把握し、施策に反映させることを目的として、おたずねするものです。



問1 あなたは、「ケアラー」や「ヤングケアラー」※ という言葉をどの程度ご存じですか。

次の中から1つだけお選びください。

※ 北海道ケアラー支援条例において、ケアラーとは、「援助を必要とする家族、友人その他の身近な人に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、ヤングケアラーは、このうち18歳未満の方を指します。

- 1 どのようなものかよく知っている
- 2 ある程度知っている
- 3 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
- 4 まったく知らなかった (この調査で初めて知った)

問2 ※「問1」で選択肢「1」または「2」を選んだ方のみお答えください。

「ケアラー」、「ヤングケアラー」という言葉をどのようにして知りましたか。

次の中からいくつでもお選びください。

- 1 新聞
- 2 テレビ
- 3 インターネット
- 4 道の広報
- 5 市町村の広報
- 6 その他 (具体的に： )

問3 家庭において家族を介護することについて、どのようにお考えですか。  
あなたの考えに最も近いものを、次の中から一つだけお選びください。

- 1 家族が介護することは当然だと思う
- 2 他人よりも家族による介護のほうが望ましい
- 3 介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい
- 4 介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う

問4 今後、家族を介護する当事者の立場になる可能性について、どのようにお考えですか。  
あなたの考えに最も近いものを、次の中から一つだけお選びください。

- 1 ごく身近なことだと思う（現に介護を行っている）
- 2 自分も当事者になる可能性が十分あると思う
- 3 自分が当事者になる可能性はあまりないと思う
- 4 自分が当事者になる可能性はないと思う（他人事だと思う）

### 3 がん対策について

今やがんは、2人に1人が罹（かか）るといわれ、道民の3人に1人ががんで亡くなっているなど、道民の生命や健康への大きな脅威となっています。

この調査は、がん医療、がん検診、緩和ケア、相談支援など、がん対策に関する様々な施策についての道民の皆様の意識や意向を把握し、がん対策の一層の充実に向けて、令和5年度中に見直すこととしている次期「北海道がん対策推進計画」に反映させることを目的として、おたずねするものです。



問1 あなたは、「がん」について、どのような印象を持っていますか。

次の中から1つだけお選びください。

- 1 こわいと思う
- 2 どちらかと言えば、こわいと思う
- 3 どちらかと言えば、こわいとは思わない
- 4 こわいと思わない
- 5 わからない

問2 定期的ながん検診の実施により、がんを早期に発見し、治療に当たることはたいへん重要ですが、道内のがん検診の受診率は、全国平均と比べ低い傾向にあります。

少しでも多くの方ががん検診を受けるためには、どのような対策が必要だと思えますか。

次の中から3つまでお選びください。

- 1 本人の自覚を促すこと
- 2 市町村や職場から積極的に働きかけすること
- 3 検診を無料化すること
- 4 からだに負担の少ない検査方法にすること
- 5 身近なところで受診できるようにすること
- 6 休日・夜間に受診できるようにすること
- 7 学校で健康教育を行うこと
- 8 がんに罹（かか）りやすい年代などの情報を提供すること
- 9 治療費に関する情報を提供すること
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問3 ご自身または家族ががん患者となった場合、どこに相談しますか。  
あるいは、がんに関する情報をどこから入手しますか。  
次の中から3つまでお選びください。

- 1 がん診療連携拠点病院（専門的ながん医療の提供等を行う病院）の相談支援センター
- 2 通院・入院先の病院
- 3 がん患者団体・家族会
- 4 知人・友人
- 5 主治医・かかりつけ医
- 6 新聞・テレビ・ラジオ
- 7 書籍
- 8 インターネット
- 9 信頼できる情報源はない
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問4 がんになっても働き続けられることができる社会づくりのため、今後、どのようなことが必要  
だと思いますか。  
次の中から3つまでお選びください。

- 1 医療従事者による適切な治療計画の提供
- 2 勤務する企業・職場の管理者の理解
- 3 職場の同僚等のサポート
- 4 家族をはじめとする支援者のサポート
- 5 治療と就労を両立するための福利厚生の実施
- 6 治療と就労の両立をサポートする相談支援窓口の実施
- 7 在宅勤務の普及など、就労をめぐる社会環境の整備
- 8 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問5 がん患者が質の高い療養生活を送るため、がんと診断されてからの「緩和ケア」に取り組む  
医療機関や施設が増えていますが、「緩和ケア」について、あなたはどの程度ご存じですか。  
次の中から1つだけお選びください。

- 1 どのようなものかよく知っている
- 2 ある程度知っている
- 3 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
- 4 まったく知らない

問6 仮にあなたががん患者となり、余命6か月と宣告された場合、療養生活の場として希望するのはどこですか。

次の中から1つだけお選びください。

- 1 最後まで「自宅」を希望する
- 2 老人ホームなどの「施設」を希望する
- 3 緩和ケアなどを受けられる「病院」を希望する
- 4 その時に受診（通院・入院）している「病院」を希望する
- 5 「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問7 がん対策を進める上で、今後、どのような取組が特に重要だと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。

- 1 専門的ながん医療を提供する医療機関の整備
- 2 がん医療に精通した医療従事者の育成・確保
- 3 がん検診の受診率向上
- 4 受動喫煙の防止
- 5 学校における健康教育の充実
- 6 がん治療の初期段階からの緩和ケアの充実
- 7 在宅で療養できる環境の整備
- 8 がんに関する情報提供の充実
- 9 がんに関する相談支援窓口の整備
- 10 患者団体等への支援
- 11 がん患者や家族への経済や雇用等の支援
- 12 がん研究の推進
- 13 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )